

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告

青野 友哉

AONO Tomoya

北野 博司

KITANO Hiroshi

渡部 裕司

WATANABE Yuji

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告

Overview on Archaeological Excavation of the Oishi 2 Site in
Sakata City, Yamagata Prefecture

青野 友哉 AONO Tomoya

北野 博司 KITANO Hiroshi

渡部 裕司 WATANABE Yuji

要 旨

山形県酒田市生石2遺跡は、東北地方における西日本の農耕文化との接触を考える上で重要な遺跡として考古学会では著名である。しかし、山形県民や酒田市民の多くは「米どころ庄内」の2000年以上にわたる歴史を知る機会は少ない。そこで、東北芸術工科大学歴史遺産学科では遺跡の調査から研究、保存、活用までを地域の人々と連携して行うことを目標とし、2020年度から研究事業を開始した。

本稿は研究事業の1つである生石2遺跡の発掘調査の概要報告である。今回は3箇所の試掘調査を行なった結果、調査地点は全体にわたり現代の土地造成や水田の耕作、流水等による土層の搅乱があるものの、地表下約80cmからは奈良・平安時代の遺構が検出され、さらに下位からは弥生土器が出土したことにより、当該期の遺物包含層が残存することが明らかとなった。

キーワード:生石2遺跡 弥生時代 奈良・平安時代 地域連携

1. 研究の目的

「米どころ庄内」とのことばは自然地理的な特性に人為的な地形改変が加わったことにより形成された歴史的な達成事項であると言える。しかし、その始まりは日本列島の中でも最初期の弥生時代前期に遡ること多くの市民・県民は知らずにいる。

東北芸術工科大学では山形の自然の中で育まれた縄文文化をはじめとした地域の遺跡や歴史遺産を学び、それらを活かす人材の育成を行っている。その一環として2020年度から「庄内地方の特性に基づく遺跡・遺物の活用の研究」を開始した。本研究では、庄内地方の縄文～弥生時代にかけての遺跡・遺物を対象に、その内容を把握し、調査により明らかとなった価値を現代の「庄内地方の特性」に絡めた活用方法を探ることを目的にする。

具体的には、酒田市教育委員会の協力のもと、過去に出土した遺物の再整理と遺跡の現状と内容を探る発掘調査及び整理作業を、本学教員が主管し、学生とともに行う。その後、調査により得た情報を用いた展示・教育普及・情報発信等の

活用策についての検討を地元の教育委員会のほか、郷土史研究会等の市民の方々に参画してもらいつつ進める予定である。

本報告は上記の計画のうち2020年8月に実施した生石2遺跡の試掘調査について概要を記したものである。調査は次年度以降も継続する予定である。

2. 調査要項

遺 蹤 名:生石(おいし)2遺跡

登 載 番 号:204-041

所 在 地:山形県酒田市生石登路田9-20

調 査 主 体:東北芸術工科大学(学長:中山ダイスケ)

発掘担当者:青野友哉(東北芸術工科大学)・北野博司(東北芸術工科大学)

調査参加者:東北芸術工科大学歴史遺産学科1年:山田幸風、高畠尚都、2年:柴田桃花・渡邊亮・松原奈々、小野寺笙子・吉田麻鈴・鈴木佳奈・渡邊佑夏・鈴木笑葉・曇光輝・加賀美宏輔、3年:天間智尋・

峯田太樹也・岡山 慧・武田寛成・安田楓加・
伊藤悠人・石川渙人、4年・鈴木大翔、文化財保存
修復学科3年:野場智聰、大学院歴史文化領域修
士1年:吉田 旭

調査面積:8m²(2m×1m×2箇所、2m×2m×1箇所)

調査期間:2020年8月24日(月)~8月27日(木)

出土文化財:弥生土器・土師器・須恵器

出土数量:1箱[内寸679×367×122mm]

3. 遺跡の概要

(1) 遺跡の位置

生石2遺跡は山形県酒田市街地から東に約8kmの大字生石登路田(とろでん)に位置する(図1)。遺跡は庄内平野と出羽丘陵の山麓が接する標高10m~14mの微高地上にあり、現況は南北に走る国道345号線を境に東の丘陵側が住宅街、西の低地部分に水田が広がっている。遺跡の北側には出羽丘陵の山麓に端を発する小河川である矢流(やだれ)川が存在する。

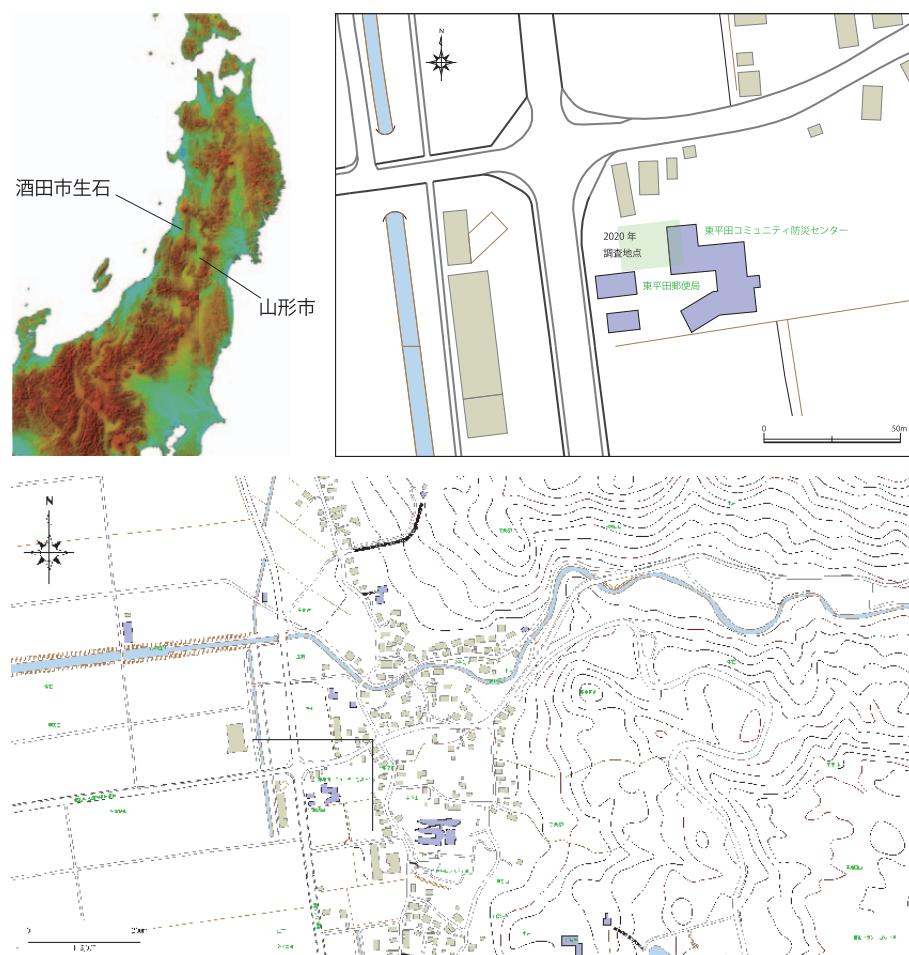


図1 酒田市生石2遺跡の位置(電子地形図(国土地理院)を加工して作成)

遺跡の丘陵側には泉谷地窯跡、願瀬山窯跡、泉森窯跡、山海窯跡といった8世紀後半から9世紀にかけての窯跡群が存在し、良質な陶土が得られる土地と考えられる。

(2) 既往の調査

生石2遺跡は開発行為に伴い5回の発掘調査がなされている。1982年の酒田農業協同組合ガソリンスタンド建設工事(調査機関:酒田市教育委員会 以下カッコ内は調査機関)、1984年の国道345号線改良工事(山形県教育委員会)、1985年の県営圃場整備事業(山形県教育委員会)、1986年酒田農業協同組合支所建設工事(酒田市教育委員会)、1994年の東平田ミュニティ防災センター建設工事(酒田市教育委員会)に伴う緊急発掘調査により、弥生時代前期・中期と奈良・平安時代の遺跡であることがわかっている。

特に弥生時代の遺物では、西日本に分布する「遠賀川系土器」と東北地方北部を中心に分布する「砂沢式系土器」、両者の「折衷系土器」(山形県・山形県教育委員会1987)が出土したことから、弥生時代研究者が注目するところとなった(須

藤1987・2000、佐原1987)。

なお、現在では、「東北地方の遠賀川系土器」のうち型式学的特徴と製作技術の観点から西日本からの搬入品はほとんどないとされ、「類遠賀川系」(高瀬2000・2017)との呼称と分類が提唱されている。

1986年の調査では土坑内に5個の土器を埋設した弥生時代の再葬墓(SK25)が発見され、これ多くの研究者から注目されることとなった(酒田市教育委員会1987、設楽1993など)。

一方、奈良・平安時代では、掘立柱建物群や井戸跡、溝状遺構が検出され、遺物は土師器・須恵器の墨書の坏が多く、低湿地部分であるだけに木製遺物も大量に出土している。生石2遺跡から北西に9

kmの位置には出羽国府跡と考えられている国指定史跡城輪柵(きのわのさく)跡があり、国府が置かれる前後の様相を知る上で重要な情報を有している。なお、奈良・平安時代の遺構・遺物は低地部分だけではなく、標高約15mの調査地点でも確認されている(酒田市教育委員会1995)。

既往の調査からは、弥生時代の遺構分布は国道345号線を挟んだ比較的低位の部分にあり、奈良・平安時代には標高がやや高い部分にまで広がることがわかる。

4. 発掘調査の方法

2020年度の調査区は国道345号線と東平田コミュニティ防災センターとの間とした(図1・図2)。同センターは1994年に酒田市教育委員会が調査し、奈良・平安時代の遺構・遺物が見つかっており、そこよりも標高が約1m低い部分を選定した。この場所はかつて水田であったが埋め立てにより現在は草地と畑となっている。

調査区の設定にあたり、まず方位に合わせた一辺5mのグリッドを設けた(図2)。グリッドは敷地の北西隅を基準とし、北から南にアルファベットを、西から東に算用数字を振って組み合わせている(例:A2グリッド)。

調査区はテストピット1~3まであり、1はAグリッド中、2はC2グリッド中、3はA4グリッド中に位置する(図2)。当初のテストピットはすべて東西に長い2m×1mであったが、テストピット3は遺物の出土量が多く、遺構も検出されたことから南側に拡張して2m×2mとした。

掘削はすべて人力とし、表土層はスコップで行い、遺物包含層に達してからは移植ゴテで行なった。遺物は遺構に伴うものは出土位置を記録したが、その他の土器は磨耗していたことから、ローリングにより原位置をとどめていないと判断し、層位ごとに一括して取り上げた。

レベル移動に用いる水準点は、調査地点から北東に約200mにある矢流川にかかる旭橋の3級基準点(10B-2、H=16.259m)を用いた。移動したレベルは東平田コミュニティ防災センターの擁壁の北端をベンチマーク(H=15.456m)として記録している。

5. テストピットと遺構・遺物

各テストピットの調査結果は以下の通りである。遺構が検出されたのはテストピット3のみであった。

(1) テストピット1(図3、写真9・12・13)

2m×1mの範囲を掘削すると表土である黒色砂質土(1a層)の下に白色砂質土(1b層)が現れた。テストピット1の北側に隣接する耕作地に同様の白色砂質土があり、畑を作る際に客土した土であると判断した。

2層の褐色砂質土と3層の暗褐色砂質土は土師器と須恵器の遺物包含層である。土器の磨耗の度合いが激しいことから、流水によりローリングを受けた結果と思われ、現代の水田耕作土と判断した。

3層を取り除くと4a層の灰色粘質土が面的に広がり、水田の床面と思われた。4a層上面で遺構は検出されなかつたため、テストピットの西側にサブトレンチを設けて掘削したところ、地下水が染み出し、これ以上の掘削が困難となった。サブトレンチ内の灰色粘質土から遺物は出土していない。

(2) テストピット2(図4、写真10)

2m×1mの範囲を掘削すると本来は下位に存在するはずの青灰色シルトと、客土である砂が混ざった土層が現れ、土層が大きく乱されていることが伺えた。2~4層の土層断面は各層の境界が縦方向となっており、掘り込まれた後であることがわかる。各層には金属やプラスチックなどが含まれており、テストピットの範囲全体が現代の搅乱を受けていると判断し、掘削を中止した。

(3) テストピット3(図5、写真11・14)

テストピット3は当初2m×1mの範囲を掘削したが、遺構・遺物が多く発見されたため、のちに拡張して2m×2mの範囲とした。

土層はテストピット1と同様に表土に客土の砂層が約30cm堆積し、その下の褐色砂質土(2層)と暗褐色砂質土(3層)からは磨耗した土師器・須恵器が出土している。さらにその下層には小礫を多く含む褐色砂質土(4層)が広がり、弥生時代の包含層と考えられた。

遺物は弥生土器の甕の口縁部から胴部上半にかけての破片が1点出土した。土器の口縁部は無文のヨコナデ調整がなされ、頸部に一条の沈線文、胴部は原体LRの斜行縄文が施されている。斜行縄文は原体を約3cmの幅で横方向に回転施文したものである。

弥生時代の包含層の有無を確認すべく、サブトレンチを設けて掘削したが、調査の終了時期が迫っていたため途中で終えて土嚢で埋め戻した。調査は次年度も継続するため、テストピット3の土層断面図は作成していない。

なお、この4層上面を確認面として遺構の精査をしたところ、3箇所のピットを検出したので以下に記す。

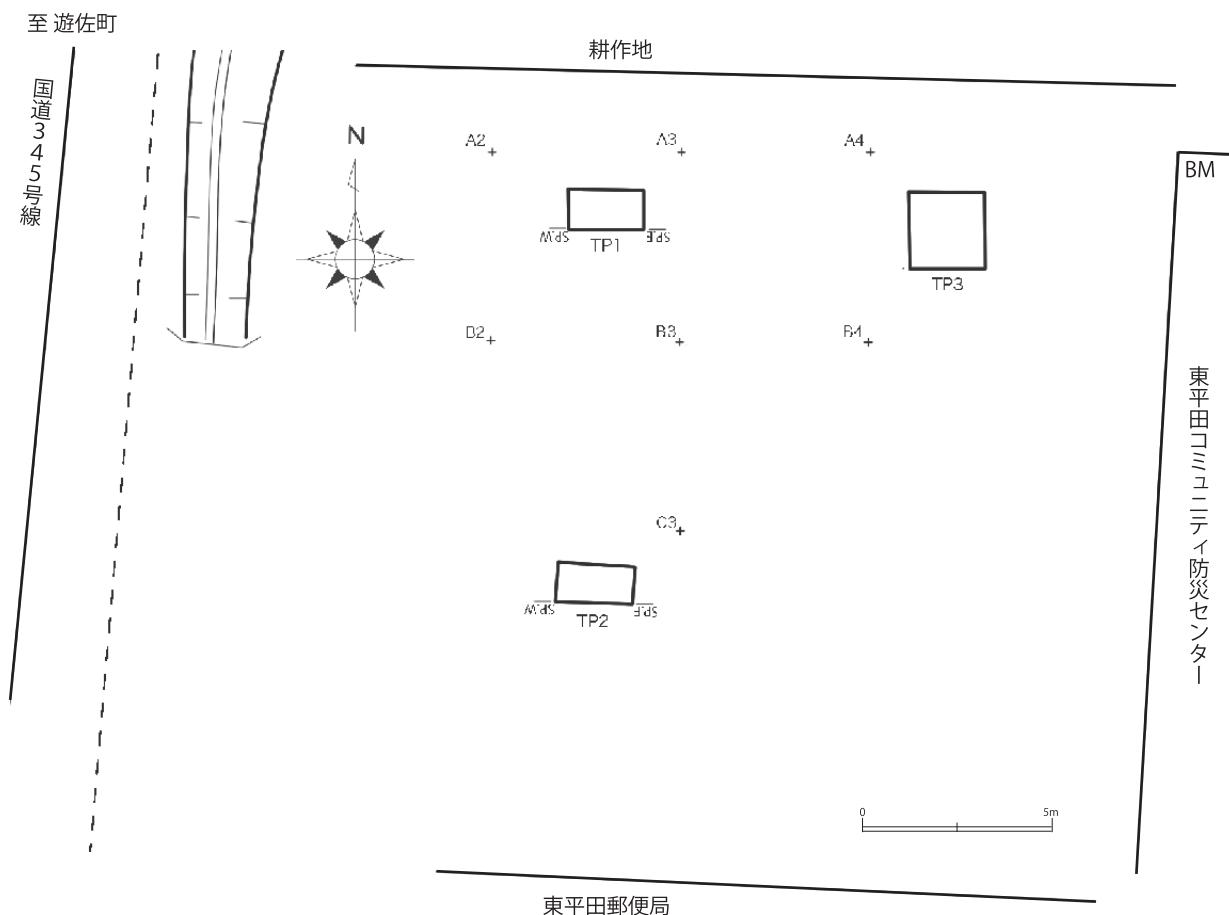


図2 テストピットの配置図(TP1～3)

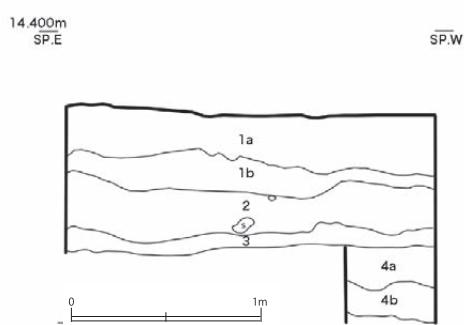
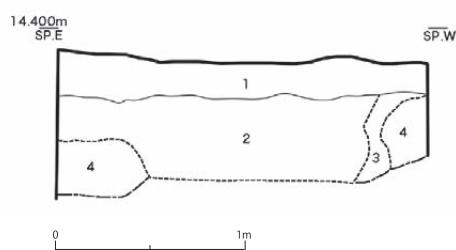


図3 テストピット1の土層断面図(南面)

- 1 a 層 黒色砂質土（表土）
- 1 b 層 白色砂質土（表土・客土）
- 2 層 褐色砂質土（水田耕作土か。磨耗した土師器・須恵器を含む。）
- 3 層 暗褐色砂質土（水田耕作土か。磨耗した土師器・須恵器を含む）
- 4 a 層 灰色粘質土（粒子がやや粗い）
- 4 b 層 灰色粘質土（粒子が細かい）



- 1 層 青灰色砂質シルト（表土・客土）
- 2 層 黒色砂質土（搅乱層）
- 3 層 青灰色砂質土（搅乱層）
- 4 層 青褐色シルト（搅乱層）

図4 テストピット2の土層断面図(南面)

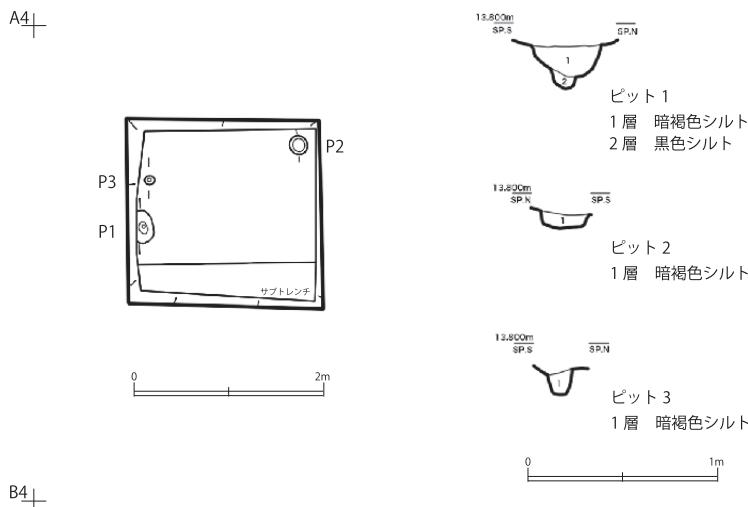


図5 テストピット3検出のピット(1~3)の平面図及び土層断面図

(4) ピット1~3

ピット1は平面が楕円形ないしは隅丸方形で、平面の1/3が調査区外にあるため形状を断定できない。中央には直径12cmの円形のくぼみがあり、柱穴と思われる。

ピット2は平面が直径24cmの円形で、底面は平坦である。暗褐色シルトがわずかに堆積しているのみだが、本来は深さのある掘立柱の底部分である可能性がある。

ピット3は平面が12cmの円形で断面の下方が狭くなっていることから打ち込み柱と考えられる。

これらはいずれも覆土が暗褐色シルトであり、構築面は3層中と考えられることから、時期は奈良・平安時代のいずれかの時期と言える。調査範囲が狭いため組み合わせや用途は不明である。

6. 成果と課題

2020年度の発掘調査では、調査地点の全体にわたり現代の土地造成や水田の耕作、流水等による土層の乱れはあるものの、テストピット3においては地表下約80cmに奈良・平安時代の遺構が残存していることが明らかとなり、さらに下位には弥生時代の遺物包含層の存在を示せた点は成果である。今後は、調査面積を広げて面的な調査を行うことにより、遺構配置を含めた検討を行う必要がある。同時に遺跡全体の内容と遺存状態の把握のため、より広範な試掘調査が必要である。

なお、本研究の一環である既往の調査における未発表遺物の実測と公開については、現在、弥生時代遺物（酒田市教

育委員会1986年度調査分）を東北芸術工科大学が借用し、図化に取り組んでいる。

調査・報告にあたり、下記の機関および個人より指導・助言を得た（敬称略）。

庄司はつせ・庄司博、武田恵子（酒田市議会）、大井隆雄（東平田郷土史研究会）、白石哲也（山形大学）、三谷智広（パレオ・ラボ）、佐藤祐輔（仙台市縄文の森広場）、酒田市教育委員会、東平田コミュニティ防災センター、東平田郵便局、しらい自然館。

参考文献

- 酒田市教育委員会 1987『山形県酒田市生石2遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-24
- 酒田市教育委員会 1995『山形県酒田市生石2遺跡－東平田コミュニティ防災センター建設に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-10
- 佐原 真 1987「みちのくの遠賀川」「東アジアの考古と歴史」岡崎敬先生退官記念事業会. pp.265-291
- 設楽博己 1993「壺棺再葬墓の基礎的研究」「国立歴史民俗博物館研究報告』第50集. pp.3-48
- 須藤 隆 1987「東日本における弥生文化の受容」「考古学雑誌』73-1. pp.1-42
- 須藤 隆 2000「弥生時代の東北地方」「宮城考古学』2. pp.1-24
- 山形県教育委員会・山形県埋蔵文化財緊急調査団 1985『酒田市生石2遺跡 第2次調査説明会資料』pp.1-13
- 山形県・山形県教育委員会 1985『生石2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第89集. pp.1-34
- 山形県・山形県教育委員会 1987『生石2遺跡発掘調査報告書』(3)
- 山形県埋蔵文化財調査報告書 第117集. pp.1-180



写真1 調査区全景(西から撮影)



写真2 調査区近景(西から撮影)



写真3 テストピット1の掘削



写真4 テストピット3の掘削



写真5 テストピット3の掘削



写真6 テストピット3内のピット1の掘削



写真7 ピット1(左)とピット3(右)



写真8 ピット2の土層断面



写真9 テストピット1の平面(左:東から撮影)及び断面(右:南壁面)



写真10 テストピット2の平面(左:東から撮影)及び断面(右:南壁面)



写真11 テストピット3の平面(左:北から撮影)及びサブトレンチ断面(右:南壁面)



写真12 テストピット1出土遺物(2層)



写真13 テストピット1出土遺物(左:3層、右:4層)



写真14 テストピット3出土遺物(左:4層、右:ピット3)